


<p>生徒と保護者のための 進路通信 ☆伊勢崎清明高校☆</p>	<p>ガイダンス</p>	<p>第5号</p> 	<p>2021. 9. 8</p>
--	--------------	---	-------------------

秋を有意義に過ごす

夏休みが終了しました。そして、二学期。この二学期をどう過ごすか、それはとても重要なことです。二学期という時間はみなさんにほぼ平等に与えられます。しかし、それを無駄に過ごすか、きちんと積み重ねていけるのかで大きな差がついてしまいます。現在、みなさんは先生方と面談を重ね、一年生は文理選択を決定し、二年生は学部・学科選択について悩んでいるのではないのでしょうか。

そこで、ガイダンスセンターでは一年生向けに「学習法講演会&大学講演会(10/20)」、二年生向けに「大学・短期大学・専門学校説明会(10/7)」を企画しました。(8/27現在 今後の状況により変更あり) 過去にはここで話を聞き、「やはり自分の進むべき道はここだ。」と意志を固めた先輩がいます。また、自分の考えていた学校像と違っていと痛感し、方針転換した先輩もいます。臨床検査系の志望から理学療法系に志望変更した人がいました。保育士志望から、看護福祉系に志望変更した人もいました。

先輩方はみんな悩んで、実際に学校を見学したり、説明を聞いたりした結果、自分のつるはしでがちりと新鉱脈(新たな可能性)を掘り当てたのです。

眠っている才能を揺り起こす

自己発見に関する世界最高権威であるロビン・シャーマは、「ただ存在しているのと、真剣に生きているのは違います。ただ生き続けているのときちんと成長しているのは違います。悲しいことに、ほとんどの人は自分の中にある人間的な才能を見失っており、生涯最良の時を家でテレビを見て過ごすことにあまんじているのです。」と書き、古代インドの神話を紹介しています。

こんな話です。

何千年も前、地上を歩く者はすべて「無限の力」を持っていると信じられていました。しかし、人間がその「無限の力」を悪用したので、神様は、その力、つまりあらゆる可能性の根源を隠して、だれにも見つけられないようにしようと考えました。そこでそういったものをどこに隠すか、という問題が生まれました。

ある人が、地中深くに埋めることを提案すると、神様は、「いや、いずれ、だれかが掘って、見つけてしまうだろう」と答えました。

すると別の人が、「いちばん深い海の底に沈めてはいかかでしょう。」と言ったのです。それに対して神様は「いや、いずれ、だれかが潜って、見つけてしまうだろう。」と答えました。

すると、三人目の人が「では、いちばん高い山に…」と言ったのです。最高神は「いや、いずれ、だれかが登って、見つけてしまうだろう。」と答えました。そしてしばらく考えていると、神様は解決策を思いつきました。

「そうだ。すべての人間の力、可能性、目的の源を、地球上にいるあらゆる男、女、子どもの心の中にしまっってしまう。」と言ったのです。神様は「なぜなら、彼らは決してそこを探そうとはしない。」そう考えたのです。

学校の風を肌で感じる

みなさんは自分の心の中にある可能性の根源に気づいていますか。もし、はっきりしないのであれば、「学習法講演会&大学講演会」でたくさん話を聞いてみてください。学校の雰囲気を感じることにより、自分の心の中を見つめ直し、諸君の可能性の根源を探し当てることができるでしょう。「大学・短期大学・専門学校説明会」によって、今まで霧の中に閉じ込められていたものが、ある角度の方向で、明らかになり、諸君は自分の進んでいくべき道を発見することができるかもしれません。ぜひ、あこがれの学校の話聞いてみてください。

人生で一番応援される一年

三年生は自分が進みたいと思う道について、何度も家族や先生と話し合い、行く先を照らして、目標地点を確認していることと思います。

この時期、志望校を変更して受験科目に小論文があることになった生徒からこんな質問を受けます。

「何を書いたらいいかわからない(泣)」

多くの受験生にとって、小論文はつかみどころのない暗闇のような科目。「〇〇について、あなたの意見を述べなさい。」など、「意見を述べよ。」といわれると固まってしまう人がいます。「小論文が書けない」「書くことが思いつかない」と嘆く人はたいていここでつまづいているのです。なぜ、そうになってしまうか。それは、何を書いたら「意見」なのかを理解していないからなのです。

そんな受験生にここでプチアドバイスを贈ります。例えば、「今日は天気がいい。」これは事実の説明。「今日は天気がいいからうれしい。」これは個人的な感想。では、「意見」は？「今日は天気がいい。だから出かけよう。」これが「意見」。つまり「意見」とは「何かを提案すること」なのです。

小論文でよく出題されるテーマといえば、環境問題とか格差社会。これらの共通点は「世の中で問題になっていること」です。文章の流れは「世の中の誰かが困っている」→「問題点を明らかにする」→「解決策を提案」となります。つまり「問題解決」をしている文章を小論文、これができてないのが「作文」となるのです。例えば、

問 題 「昨日の遠足について、思ったことを書きなさい。」

作 文 → 「昨日の遠足は楽しかった。クラスの仲間といい思い出ができた。」

小論文 → 「昨日の遠足で生徒の一部がゴミのポイ捨てをしていた。
来年度は各自でゴミ袋を持参しよう。」

となるのです。どうでしょう。暗闇に少し明かりが灯りましたか。

受験生の一年は大変つらい一年です。でも見方を変えれば、人生で一番応援される一年でもあります。たくさん応援を受けながら受験日に向かっていくのです。ただ、最後の最後まで応援してくれるのは誰でしょう。受験会場に足を震わせながら入ったとき、そして緊張しながら椅子に座った時、「がんばれ!がんばれ!」と背中を押してくれるのは誰でしょう。それは、まぎれもなく「がんばってきた過去の自分」です。

みなさんは、そういう自分をつくるために今、がんばっているのです。